

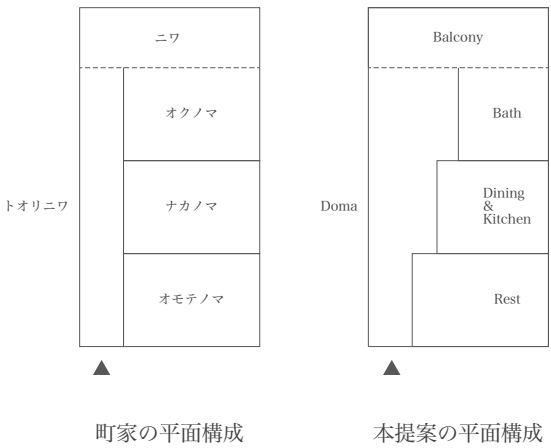
架構と余白の挿入

－ 住民の創意工夫の土台として －



従来のワンルームは、暮らしの多様さや外部との関わりを受け止めきれていないのではないか？
本提案では、RC の躯体に木架構を挿入し、奥へ進むほどに拡がる余白を設けた。段床の高低差やシルバーの壁面が柔らかな光と奥行きを導き、土間はバルコニーと連続することで、作業場にも食卓にも庭にも変わる。完成されたかたちを提示するのではなく、住まい手の創意工夫や関わり方によって常に更新される住まいである。その奥へと誘う構えは、伝統的な町家の奥行きを思わせながらも新しいワンルームの姿を提示している。

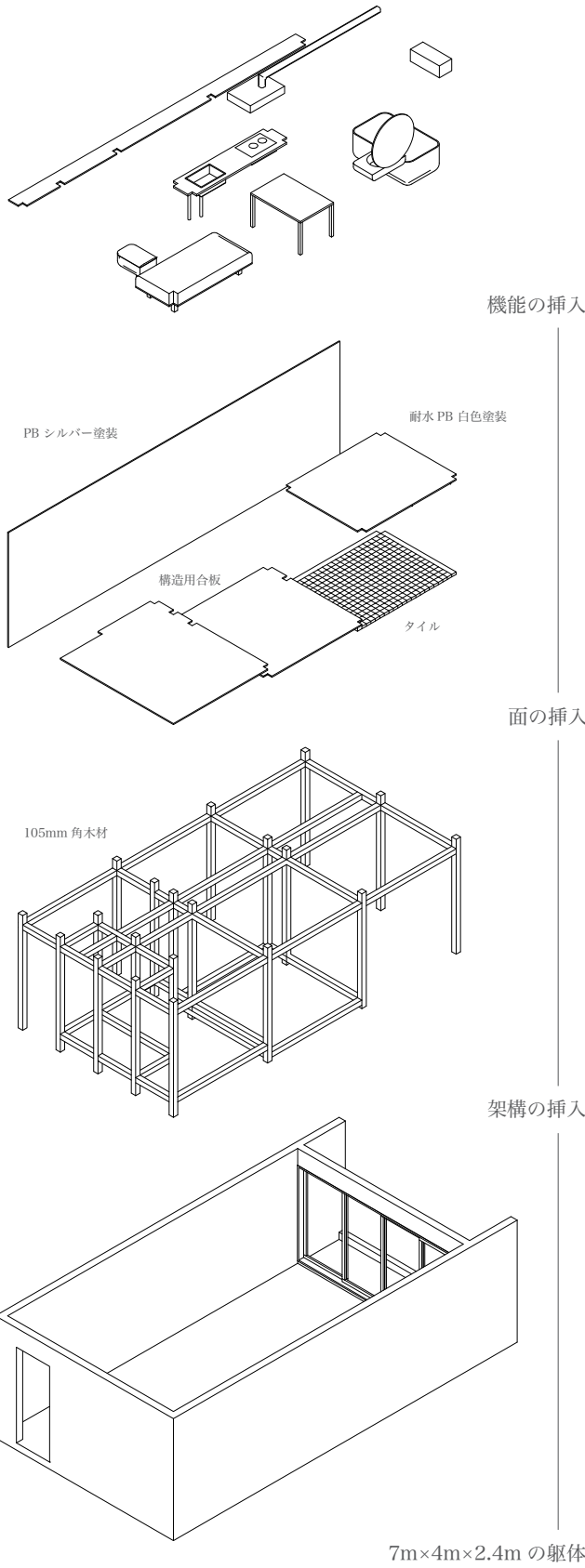
平面構成について ▽



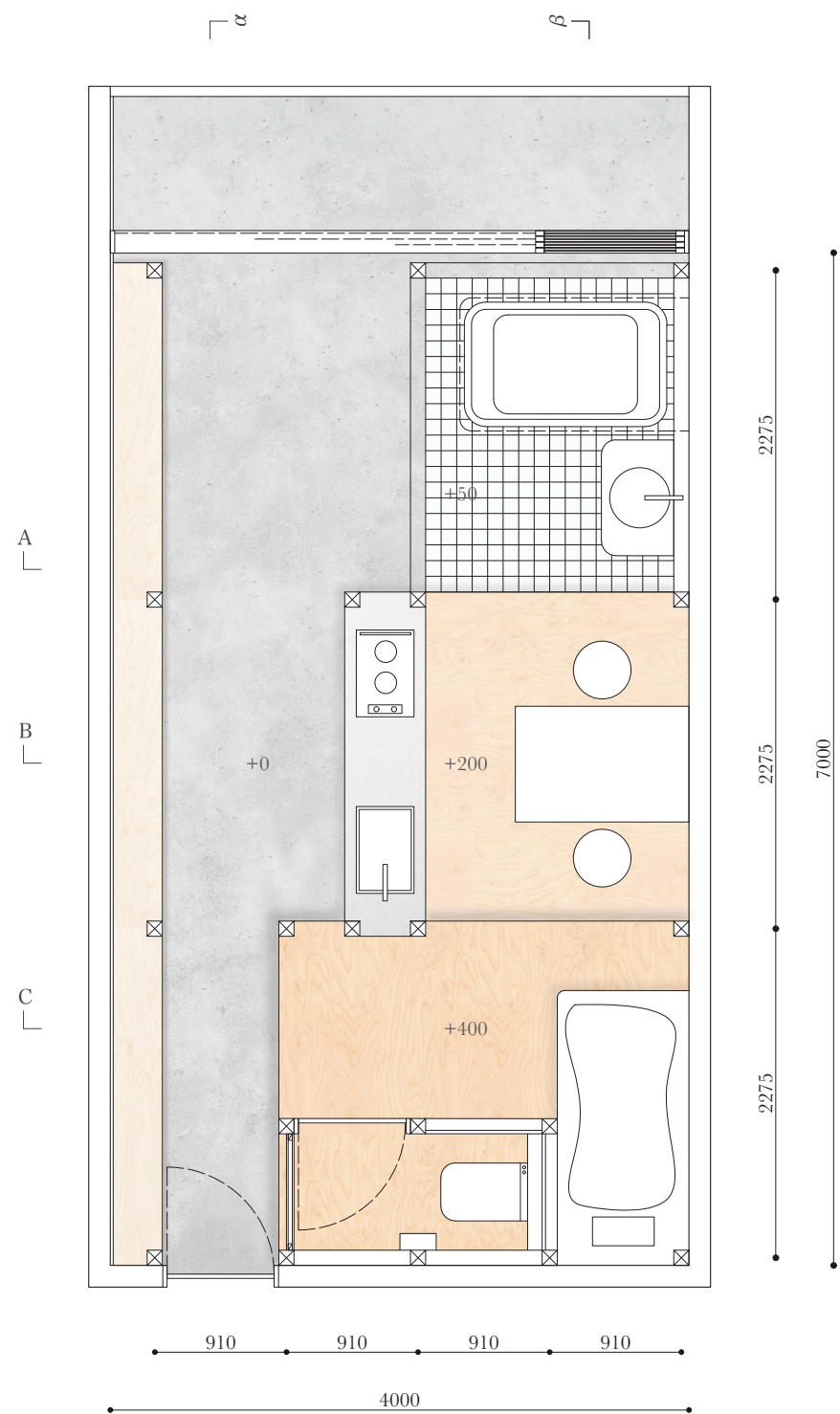
7m×4m×2.4m の躯体に、105mm 角木材で構成された、910mm が基本の架構を挿入する。架構は 2275mm (910mm×2.5) ごとに 455mm(910×0.5) セットバックしていく。それは、町家の通り庭が奥に進むにつれて拡幅されていくようなイメージである。拡幅された通り庭は、機能のない土間の空間として住民の個性が大きく反映される余白となる。テーブルを出して作業する、友人を招いて食事会をする、バルコニーと一体化して植物を育てるなど、様々な暮らしを許容する余白の空間である。

断面構成について ▷

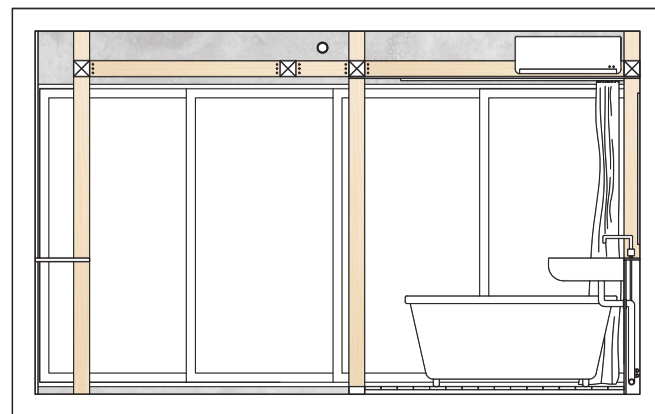
架構には 400mm・200mm・50mm の床を順に設け、空間に広がりを与える。土間側の壁面にはシルバーのパネルを挿入する。400mm の床は天井を低く抑えることで安心感のある空間を生む。キッチンは土間から作業しやすい高さである 900mm に設定、床面からはテーブルと同じ高さとなるため、テーブルの延長としても利用できる。シルバーパネルは光を室内に導く光井戸として機能すると同時に、土間と床という二つの空間に質的な違いを与える。また、梁の下端を+2100mm に設定し、架構と天井スラブの間に生じる余白を、設備の設置だけでなく、本棚や小物置きなどにも活用できるようにした。



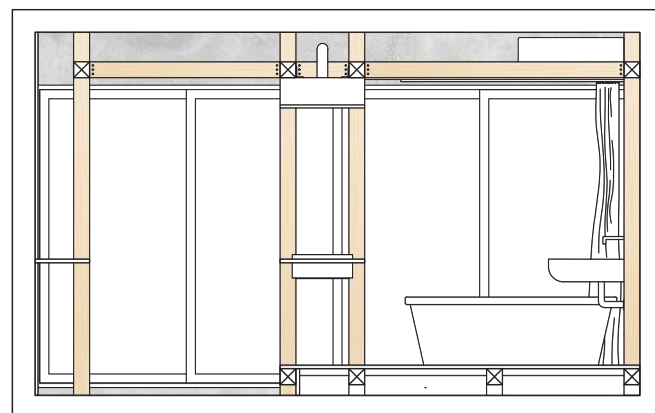
Axonometric Diagram



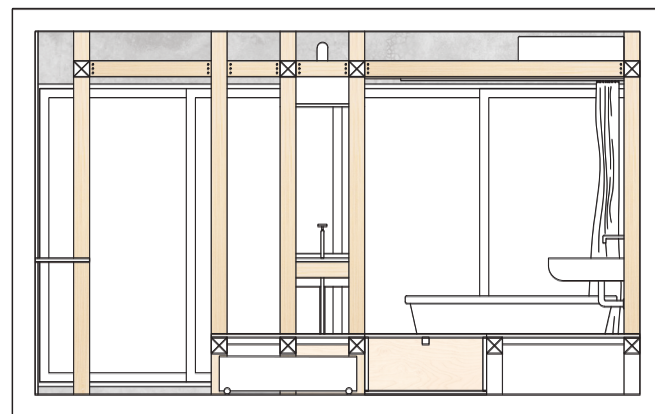
plan : scale 1/50



section A : scale 1/50



section B : scale 1/50



section C : scale 1/50



躯体と架構のズレは、ライトレールにも映画館にもなる。



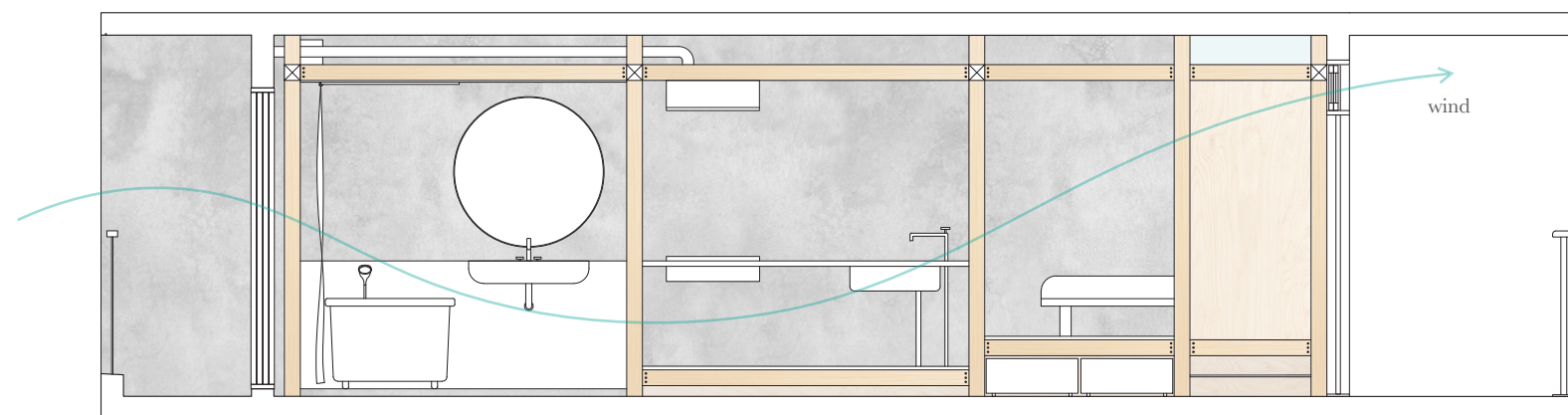
シルバー塗装の壁面により日常の行為に演出性が与えられる。



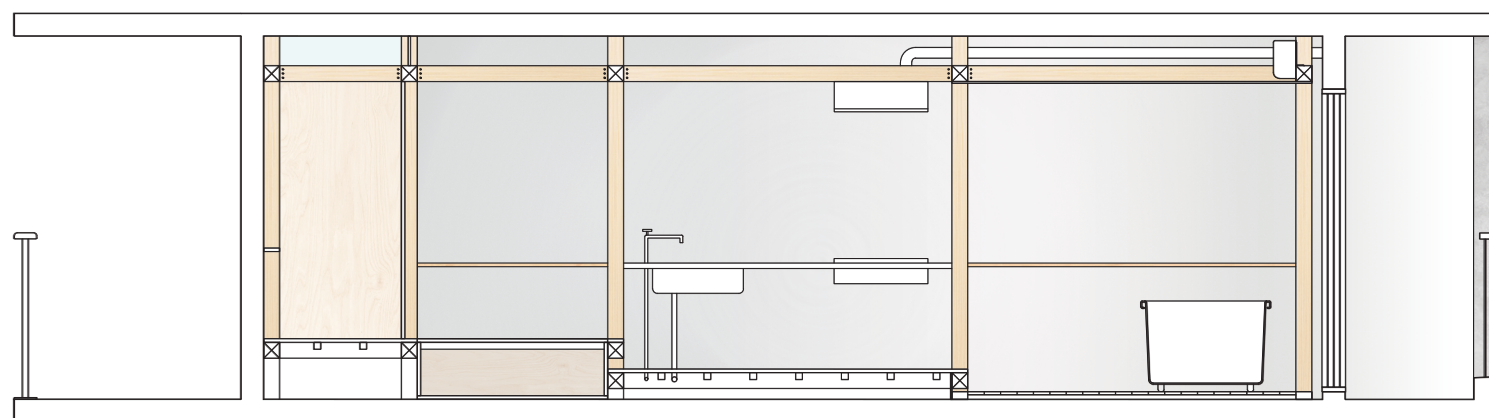
架構を手がかりに生活を営む。



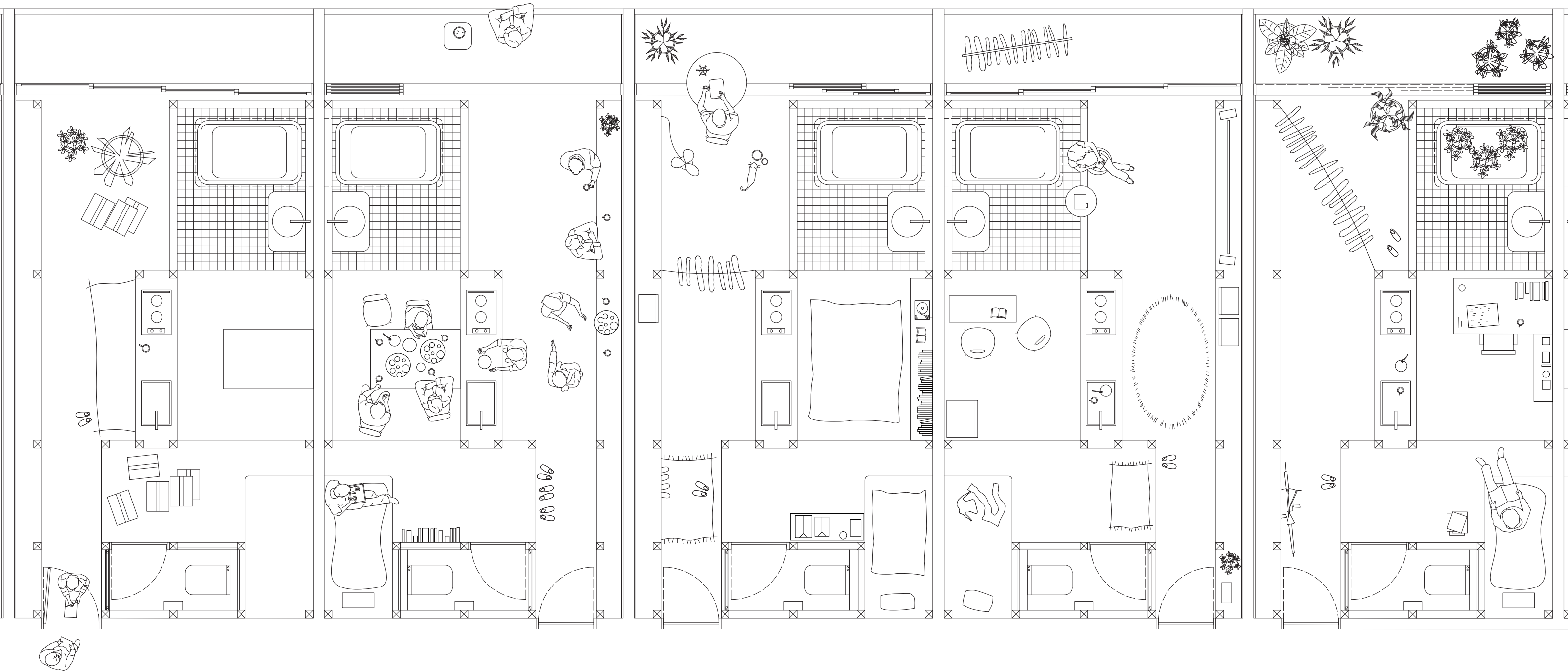
引き込み窓を開け放つとバルコニーと土間が繋がる。



sectiona : scale 1/50



sectionβ : scale 1/50



各住民の創意工夫のもと、様々な暮らし、個性的なワンルームが生まれる。